

玉川ダム交流会 ダムの役割がわかった

7月26日、ダムへの理解と、森林や水といった自然資源への認識を深めてもらうと、玉川ダム交流会が開催されました。この交流会には、水源地である仙北市の小学校7校のほか、受益地の大仙市から太田北小学校、秋田市から上北手小学校の4年生261人が参加。ダム堤体内部や玉川発電所などを見学



しました。昼食後には名刺交換で交流を深めたり、生き物コーナーなどで楽しみました。参加した児童は、「ダムの役割がわかってよかった」「〇×クイズも楽しかった」「いろいろな人と交流できてよかった」と話していました。

内陸線車両清掃に汗

7月18日、松木内中学校と西明寺中学校の吹奏楽部員と関係者など約40人が、内陸線車両清掃ボランティアを行いました。両校吹奏楽部は、今年度初めて合同でコンクールに出場することになり、今回は部員のコミュニケーションを深めることにも、高校通学に欠かせない内陸線存続のための奉仕活動として実施されました。



生徒からは、「窓や天井がきと一緒に汗を流すことで両部員に一体感が生まれた気がする」と話していました。

子どもたちの勉強をお助け

7月25日から27日、仙北市総合情報センターで「角館キッズ学びい教室」が行われ、市内小学生延べ250人が参加しました。この教室は、「楽しい学習オタスケマンの会（菅原正五郎会長）」が子どもたちの自学自習を支援しようといわれたもので、11年前から開かれ今回が19回目。退職した先生や高校生などが「オタスケマン」となり、子どもたちの学習指導にあたり



この3日間で夏休みの宿題ドリルを完成させた児童もいて、「毎年参加している。ここに来ると宿題が進む」と意欲的に学習に取り組んでいます。

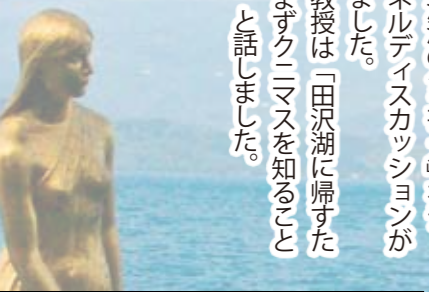
園外活動に内陸線

7月27日、角館保育園年長組55人が、車両基地（北秋田市阿仁）でバックヤードツアー「ぼっぼ屋体験」を行いました。道中はいくつものトンネルや渓谷を渡る鉄橋の車窓に引き付けとなったほか、手押しで車両を移動させたり、運転席に座って運転士気分を味わったりと内陸線ならではの魅力を満喫しました。



クニマスを発見記念フォーラム

7月30日、仙北市民会館を会場に、クニマス発見記念フォーラムが行われ、約600人が参加しました。フォーラムでは、クニマスの生息を確認した京都大学の中坊徹次教授が講演を行い、その後「蘇る田沢湖のクニマス」をテーマにパネルディスカッションが行われました。中坊教授は「田沢湖に帰すためにもまずクニマスを知ることが必要」と話しました。



「クニマスは生きている一伝説から科学へ」の演題で講演を行う中坊教授

▼コーディネーターを務める杉山秀樹氏（秋田県立大学客員教授）
▼パネルディスカッションに参加した左から西木正明氏（作家）、矢口高雄氏（漫画家）、塩野米松氏（作家）、三浦久氏（丸木舟の会会長）、小松嘉和氏（秋田魁新報社記者）、中坊徹次氏（京都大学総合博物館教授）



仙北市防犯協会通常総会 防犯意識高める

7月22日、仙北市防犯協会通常総会が大会場で開催され、会員や来賓49人が出席しました。議事では、今年度の事業計画や予算案など原案どおり承認。市民や会員とともに防犯への意識を高めていこうと誓い合いました。



かくのだてで絵燈籠夏まつり 幻想的に夜を彩る

かくのだてで絵燈籠夏まつりが仙北市商工会青年部と角館あきんど塾の合同主催で8月6日行われました。立町ボケツトパーク周辺を会場に行われたこの夏まつりでは、夕方から天勢の人が集まり、よさこいや武心会空手演武、飾山囃子などのイベントも催され、会場を盛り上げました。辺りも暗くなった19時ごろには、子どもたちが作製した絵燈籠に明かりが灯され、会場周辺をパレード。幻想的な雰囲気になりました。

